

令和5年度全国学力・学習状況調査の分析結果と活用について

半田市立亀崎中学校

1 教科に関する調査の結果

(1) 学年全体の傾向

教科学力は国語・数学・英語ともに全国の結果より高い傾向が見られる。数学は全国の結果を上回り、愛知県の結果とはほぼ同等であった。教科に対する関心は国語が高く、教科の大切さについて肯定的な回答をしている生徒が94.1%となっており、これが正答率の高さにも繋がっていると考えられる。

(2) 教科に関する問題の結果

ア 国語は

- ・おおむね良好であるが、より伸ばしていきたい。
- ・領域別に見ると「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」の平均正答率が全国や愛知県の結果を大きく上回ったが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の平均正答率が愛知県・全国のものとはほぼ同じ水準にとどまった。

イ 数学

- ・全体としては全国の結果を上回ってはいるが、愛知県の結果をわずかに下回る。
- ・領域別平均正答率は、「データの活用」の領域で定着率が低く、今後の課題となった。

ウ 英語

- ・愛知県や全国の結果とはほぼ同じである。さらに力を伸ばしていきたい。
- ・「話すこと」の調査では全国平均をわずかに上回る結果となったが、回答したにも関わらずうまく録音できていない生徒がおり、有意な結果とは言いがたい。

2 生徒質問紙調査の結果（質問番号順に記載）

(1) 肯定的な回答の割合が全国値・愛知県値よりも高い項目

- ・朝食を毎日食べていますか
- ・学校の授業時間以外に、普段、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか
- ・学校の授業時間意外に、普段、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか
- ・新聞を読んでいますか
- ・読書は好きですか
- ・学校の部活動に参加していますか
- ・今住んでいる地域の行事に参加していますか
- ・1、2年生の時に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか
- ・学校の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか
- ・学校の授業時間以外に、普段、1日どれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか
- ・2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか

(2) 肯定的な回答の割合が全国値・愛知県値よりも低い項目

- ・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか
- ・自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか
- ・家で自分で計画を立てて勉強をしていますか
- ・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか
- ・1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
- ・1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか
- ・1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか
- ・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか
- ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか
- ・あなたの学級では学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか
- ・学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか

3 本校における分析結果の活用

(1) 昨年度からの取組の成果

- ・タブレット端末を日常的に活用し、使用頻度は全国や愛知県の平均値を大きく上回っている。また、ICT機器の学習効果についての質問にも肯定的な回答の割合が高い。
- ・英語を中心にスピーチやプレゼンテーションなどを授業に取り入れてきたため、発表などの機会には積極的に活動する生徒の姿が見られる。
- ・職員と生徒がともに「かたろう・めざそう・きぼうとゆめを」を合い言葉に、家庭や地域の方と連携・協働することにより、将来の夢や目標を意識する生徒を増やそうとしている。
- ・読書タイムの継続的な取組により読書の週間が身に付くとともに、読書に対する肯定的な回答の割合が高くなっている。

(2) 本年度の取組

ア 授業の取組

- ・タブレット端末の利用を推進し、個別最適化・協働的な学びの達成を目指していく。特に、自らの思考を視覚化することで対話を中心とした協働的な学びのためのスキルを身に付けさせたい。
- ・AIドリルを有効活用するなど、個々の能力に合わせた学びができる個別最適化された学習の達成を目指す。
- ・課題発見力・課題解決力を育てる学びを実感していない生徒の割合が高いため、教科を問わず生徒が主体的に活動できる機会を多くもてるようにする。

イ 学習習慣の取組

- ・家庭学習の習慣のため、5教科の課題を毎日取り組めるように計画し、学級担任がその進捗を確認し、適切な声かけを行っている。小テストや単元テストは予告をし、励みにさせる。
- ・学習時間の確保ができていますので、自主学習の質を高めることで学習の効果を上げていきたい。
- ・家庭学習は学校から与えられた課題に取り組むだけの時間にならないよう、生徒が自分に適した学習方法を選択できるよう指導していく。

ウ 生活習慣の取組

- ・生活習慣が乱れがちな生徒や視力の低下が心配な生徒が増加している。学校保健委員会やお便り掲示物等で規則正しい生活習慣や望ましい姿勢、デジタル端末との付き合い方を呼びかけている。
- ・素朴な生徒が多く、体を動かしてする活動への意欲が高いため、行事等を通して達成感を味わわせ、意欲を高めることに取り組んでいる。

4 半田市キャリア教育の「キャリアA・B・C・D」を踏まえた学力向上対策

(1) **A** ction : 課題に向けて行動する力

- ・自ら課題を見つけ、主体的に解決できるよう、授業で教師が指示を出したり説明したりする時間をできるだけ減らし、生徒が自らの意思と選択で活動できる時間を多く確保する。
- ・当事者意識をもたせることで、自分に必要な課題を的確に設定したり、課題を意欲的に解決しようとする姿勢を身に付けさせたりしていきたい。

(2) **B** elieve : 自分のよさを信じる力

- ・自己有用感を育むよう、子どもの存在そのものを肯定的に捉えたり、子どものさまざまな場面での様子を複数の教師の目で評価したりすることを心がけ、褒める機会を増やす。
- ・すべての生徒が授業の中で活躍したり、自分の活動に満足したりすることができるように授業をデザインしていく。

(3) **C** ommunication : 人間関係を形成する力

- ・高根祭や合唱コンクールなどの行事や部活動を通して、互いを高め合う望ましい人間関係を形成できるような言葉かけを意識して行う。
- ・授業の中で生徒同士が対話し、助け合い、教え合う活動を通して、他者と協働することの大切さを感じられるようにしていく。

(4) **D** ream : 夢を追いかける力

- ・将来、自分たちに求められる能力は何かを理解することで、能力を伸ばすことに対する達成感を味わえるようにするとともに、夢に向かって確かな一歩を歩んでいることを意識させる。
- ・子どもたちが、自分にふさわしい職業や進路選択の実現に向けて、希望と夢がもてるよう、教師が想いを語る機会を増やす。